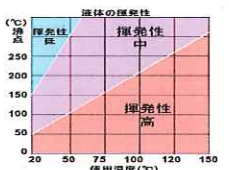


化学物質リスクアセスメント記入シート
健康障害防止

作業場所等	リスクアセスメント実施日	シート記入者

① 有害性レベル	有害性					+S
	低い	A	B	C	高い	
急性毒性	経口	区分4	区分3	区分3	区分2,1	+S
	経皮	区分4	区分3	区分3	区分2,1	
	吸入：ガス	区分4	区分3	区分3	区分2,1	
	吸入：蒸気	区分4	区分3	区分3	区分2,1	
	吸入：粉じん	区分4	区分3	区分3	区分2,1	
吸入：ミスト	区分4	区分3	区分3	区分2,1	+S	
皮膚腐食性・刺激性	区分2	区分1				
眼 重篤な損傷・眼刺激性	区分2	区分1				
呼吸器感受性				区分1		
皮膚感受性		区分1				
生殖細胞変異原性				区分2,1		
発がん性				区分2 区分1		
生殖毒性				区分2,1		
特定標的臓器 (単回)		区分2 (経皮)	区分1 (経皮)			+S
特定標的臓器 (反復)			区分2 (経皮) 区分1 (経皮)			
吸引性呼吸器有害性	区分1				+S	
全ての項目	区分外					

② 作業環境レベル



作業中の使用温度	℃
化学物質の沸点	℃
化学物質の形状	

取扱量	状態	1000mL以上	
		液体	1000g以上
中	液体	100mL以上1000mL未満	
		粉体	100g以上1000g未満
少	液体	100mL未満	
		粉体	100g未満

封じ込めレベル	
a.	密閉設備
b.	局所排気装置 (囲い式)
c.	局所排気装置 (外付け式)
d.	全体換気装置・換気なし
※設備は近いものを選定	

揮発性・飛散性	状態	沸点50℃未満	
		液体	微細な軽い粉体
中	液体	沸点50℃以上150℃未満	
		粉体	結晶状・顆粒状
低	液体	沸点150℃以上	
		粉体	ペレット状

SDS「9.物理的及び化学的性質」を参照

作業環境レベル	取扱量	大量			中量			少量		
		高	中	低	高	中	低	高	中	低
封じ込めレベル	a. 密閉設備	4	2	2	3	2	2	2	1	1
	b. 局所排気 (囲い式)	5	3	3	4	3	3	3	2	2
	c. 局所排気 (外付け式)	6	4	4	5	4	4	4	3	3
	d. 全体換気・換気なし	7	5	5	6	5	5	5	4	4

① 有害性レベル	+S
----------	----

修正ポイント	+1	作業者の白衣、保護具、手足が当該物質で汚れる
0	当該物質は作業者に付着しない	

SDS「2.危険有害性の要約」を参照

③ 年間作業時間	1日 (1回) 当たり作業時間
年間の作業回数	(回/年)
年間作業時間	(時間/年)

④ ばく露レベル	修正作業環境レベル						
	7	6	5	4	3	2	1
⑤ 400時間超	V	V	IV	IV	III	III	II
100 ~ 400時間以下	V	IV	IV	III	III	II	II
25 ~ 100時間未満	IV	IV	III	III	II	II	II
10 ~ 25時間未満	IV	III	III	II	I	I	I
~ 10時間未満	III	III	II	II	I	I	I

① 有害性レベル	④ ばく露レベル				
	V	IV	III	II	I
高 E	5	5	4	4	3
D	5	4	4	3	2
C	4	4	3	3	2
B	4	3	3	2	2
低 A	3	2	2	2	1

⑤ リスクの判定	+S
----------	----

⑤ リスクレベルの意味	5 耐えられないリスク
4 大きなリスク	
3 中程度のリスク	
2 許容可能なリスク	
1 些細なリスク	
S 眼と皮膚に対するリスク	

リスクの抽出・特定											
物質名 / CASNo. / 工程名・作業内容		① 有害性レベル	② 作業環境レベル				③ 年間作業時間		④ ばく露レベル	⑤ リスクレベル	
物質名	アセトン	D+S	作業中の取扱い温度	20	℃	A 取扱量 (大・中・少)	中	1日の作業時間 (時間/日)	0.5	IV	4+S
CASNo.	67-64-1		化学物質の沸点	56	℃	B 揮発性・飛散性 (高・中・低)	中	年間実施回数 (回/年) ×	100		
作業内容	染色作業		化学物質の形状 (粉じんのみ)	微細な粉じん	粒状 小塊	C 封じ込めレベル (a~d)	d	年間作業時間 (時間/年)	50		
			D 作業環境レベル	6	E 修正ポイント	+1	F 修正作業環境レベル	7			
物質名	メタノール		作業中の取扱い温度	℃	A 取扱量 (大・中・少)		1日の作業時間 (時間/日)				
CASNo.	67-56-1		化学物質の沸点	℃	B 揮発性・飛散性 (高・中・低)		年間実施回数 (回/年) ×				
作業内容	標本作製		化学物質の形状 (粉じんのみ)	微細な粉じん	粒状 小塊	C 封じ込めレベル (a~d)		年間作業時間 (時間/年)			
			D 作業環境レベル		E 修正ポイント		F 修正作業環境レベル				
物質名			作業中の取扱い温度	℃	A 取扱量 (大・中・少)		1日の作業時間 (時間/日)				
CASNo.			化学物質の沸点	℃	B 揮発性・飛散性 (高・中・低)		年間実施回数 (回/年) ×				
作業内容			化学物質の形状 (粉じんのみ)	微細な粉じん	粒状 小塊	C 封じ込めレベル (a~d)		年間作業時間 (時間/年)			
			D 作業環境レベル		E 修正ポイント		F 修正作業環境レベル				

化学物質リスクアセスメント 記入シート	作業場所等	リスクアセスメント実施日	シート記入者
爆発・火災防止用			

① 爆発の三要素		RA終了と続行の判断	
可燃物	有 無	全部有(○) →	RA続行
空気	有 無	無(×)がある →	RA終了
着火源	有 無		

リスクアセスメントを実施しますか? NO → 終了 YES → ②へ

② 1次評価点 (ランク)		大 ← 危険性 → 小			
		6	4	2	1
爆発性	等級 1.1-1.6				
可燃性・引火性	区分 1	2			
エアゾール	区分 1	2			
支燃性・酸化性ガス	区分	1			
高圧ガス	ガス				
引火性液体	区分 1	2	3	4	
可燃性固体	区分	1, 2			
自己反応性化学品	タイプ A-B	C-F			
自然発火性液体	区分 1				
自然発火性固体	区分 1				
自己発熱性化学品	区分 1	2			
水反応可燃性化学品	区分 1	2, 3			
酸化性液体	区分	1, 2, 3			
酸化性固体	区分	1, 2, 3			
有機過酸化化合物	タイプ A-D	E-F	G		
金属腐食性物質	区分 1				
粉じん爆発 (粒径: μm)		0.01	0.1	1.0	

③ P 危険源要素の発生の可能性	
条件によって、1次評価点のランクを上げる	
取扱い温度	沸点 °C
	引火点 °C
	発火温度 °C
1次評価点をそのまま (例: 2-2)	取扱い温度 < 沸点
1次評価点を1つ上げる (例: 2-4)	取扱い温度 > 沸点
1次評価点を2つ上げる (例: 2-6)	取扱い温度 > 引火点
	取扱い温度 > 発火温度

④ F 取扱いの量や頻度について	
評価点	量や実施頻度
4	大量 t KL 毎日1回以上
3	中量 kg L 週1回以上
2	少量 g mL 月1回以上
1	微量 mg μL 年に数回

⑤ S 影響の重篤度		
S: 想定される人的被害の程度		
評価点	重篤度	基準
10	致命傷	死亡 フロア全体
8	重傷	永久的労働不能 入院・障害 休業1ヶ月以上 (重傷者有り)
6	負傷	通院 休業4日以上 (重傷者無し)
3	軽傷	受診 休業3日以内
1	微傷	手当後作業に復帰

RP	RR	リスクレベルの意味
16 ~ 20	5	耐えられないリスク
13 ~ 15	4	大きなリスク
10 ~ 12	3	中程度のリスク
7 ~ 9	2	許容可能なリスク
3 ~ 6	1	些細なリスク

SDS「2.危険有害性の要約」を参照

リスクの抽出・特定		① 爆発の三要素	RA	② 1次評価点	温度等	③ P	④ F	⑤ S	⑥ RP	⑦ RR	リスクの低減対策
物質名 (CASNo.)	工程名・作業内容	三要素がある→○なし→×	続行		取扱い温度 °C	2次評価点	量と頻度	影響の重篤度の程度	ポイント	レベル	
物質名 アセトン CASNo. 67-64-1	染色作業	可燃物 ○ 空気 ○ 着火源 ○	続行 終了	4	取扱い温度 20 °C 沸点 56 °C 引火点 -20 °C 発火温度 465 °C	6	3	3	12	3	
物質名 メタノール CASNo. 67-56-1	標本作製	可燃物 ○ 空気 ○ 着火源 ○	続行 終了		取扱い温度 °C 沸点 °C 引火点 °C 発火温度 °C	+	+	=			
物質名	工程名・作業内容	可燃物 ○ 空気 ○ 着火源 ○	続行 終了		取扱い温度 °C 沸点 °C 引火点 °C 発火温度 °C	+	+	=			
物質名	工程名・作業内容	可燃物 ○ 空気 ○ 着火源 ○	続行 終了		取扱い温度 °C 沸点 °C 引火点 °C 発火温度 °C	+	+	=			
物質名	工程名・作業内容	可燃物 ○ 空気 ○ 着火源 ○	続行 終了		取扱い温度 °C 沸点 °C 引火点 °C 発火温度 °C	+	+	=			